

研究課題 「性教育」に関する実践研究

小中学校における性教育に関する指導の普及・拡大と充実に関する研究

札幌市立柏中学校 代表者 本 間 良 夫

I 研究の目指しているもの

望ましい行動が
できる児童生徒
の育成

性的成熟と社会
的成熟のアンバ
ランス

1 研究のねらい

本市の学校教育の重点のひとつである「健やかな身体の育成」については、近年、健康に関する様々な課題が生じてきている状況があり、より計画的で実効性ある指導が求められている。

また、学校教育においては、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことが求められており、それを支える確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和のとれた育成を重視した様々な取組が行われている。中でも「生命の大切さを理解するとともに、人間尊重、男女平等の精神に基づく正しい異性観をもって望ましい行動ができる児童生徒を育成する」ことを目指す性教育に教育活動全体を通して取り組むことが重要になっている。

近年、子供の心身の発育・発達の促進化や子供を取り巻く性に関する情報などの環境の変化により、性に関する発達課題も変化し、個人差も大きくなっている。同時に、子どもを取り巻く家庭環境や社会環境も大きく変容する中で、児童生徒の心身の発達における、性的成熟と社会的成熟のアンバランスが生じてきている。

このような状況にあっては、これまで以上に学校教育に於いて児童生徒が生命を大切にし、人権を尊重する心をはぐくむとともに、性に関する科学的知識と倫理観を身に付けさせる必要がある。同時に、札幌らしい特色ある学校教育を具現化するためにも、各学校における性教育の目標の設定や指導内容の選択に当たっては、性教育本来の目標に併せ、今日的課題を十分配慮することが重要である。

そこで、今回は性教育の教育課程への位置付けをどうしていくのがよいのか、また、児童生徒の育成のために、どのような実践を積み重ねていけばよいのか、双方の視点から研究を深めることをねらいとした。

2 調査研究の内容

- (1) 小・中学校における性教育の教育課程上の位置付けについての理論研究
- (2) 児童生徒の実態を踏まえた性教育の在り方や指導方法についての調査研究
- (3) 性教育の優れた実践例の収集、蓄積

3 実施方法

学校教育における性教育の目標の設定や指導内容の選択の在り方について、教育活動全体を見通した上で、どのように教育課程へ位置付け、さらに関連付けるかについて、理論研究を行う。

同時に、児童生徒の発達段階に応じた性教育の在り方について、現在、研究会等行われている授業実践の調査も含め、今後の性教育の充実に関わる先進的な実践の調査、収集を行う。

II 研究の内容

研究 1

学校教育における性教育についての位置付け

1 性教育の必要性

性教育は前述されているように、「生命の大切さ、人間尊重、男女平等の精神に基づく望ましい異性観など」を育成する教育である。したがって、性教育は学校の教育活動全体を通して指導することが重要である。

それらの指導内容を関連付けて体系化をはかり、目標を設定し計画的に実践するものが「性教育」である。「命の大切さや人間尊重、男女平等の精神等」は人間性の中核をなすものであり、これらの育みを目的とする「性教育」は、学校教育に欠くことのできない重要な教育なのである。

2 教育課程への位置付け（中学校を例として）

性教育を実施するに当たっては、学校教育目標の具現化と性教育がどのように関連しているかを考える必要がある。

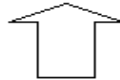
したがって、教育課程すなわち学校教育目標達成のために行われるすべての教育活動の位置付けやねらいを明確にするとともに、性教育にかかわる全体計画の作成が重要になる。

学校教育に欠くことのできないもの

全体計画の作成が重要

学 校 教 育 目 標

関連法規



生徒指導

教 科

道 徳

特 別 活 動

総合的な学習の時間

性 教 育 (内容例)

| | | | |
|---|--|---|---------------------------------|
| ・国語…男女の言葉の違い ・社会…歴史(生命の連続性) 公民(人権) ・理科…生命の原理 ・英語…男女の関わり ・音楽…変声期 ・美術…体のデッサン ・保体…二次性徴 等 | ・男女の協力 ・健全な異性観 ・男女の特性 ・人間愛、思いやりの心 ・よりよい社会 等 | ・思春期の不安と悩み ・性的な発達への適応 ・男女相互の理解 等 | ・キャリア教育 ・生き方教育 ・健康教育 等 |
|---|--|---|---------------------------------|

3 保護者との連携

性教育の内容は、命や人間の成長、人間関係にかかわる重要な内容であり、精神的にも繊細な内容を伴うことが多い。また、それらは、家庭にかかわることが多く、保護者の理解と協力が不可欠である。

そのために、「性教育」のねらいや指導内容を保護者に通知したり、公開授業を行ったりすることも考えられる。また、必要に応じて保護者アンケートを実施し、保護者の意向を分析して指導の改善に取り組むことも必要である。全体指導になじまない内容の場合には、個別指導が必要であるため、その場合は、当然保護者との連携を図るなど、協力体制を整えることが必要である。

保護者の理解と協力を得る

小学校における性教育の関連付けについて

発達段階に即した目標の設定

1 小学校における性教育の目標

小学校教育は6年間という長い期間であり、心身の発育・発達の変化の著しい時期である。そのため、性教育の目標も、学校教育の基本目標を受けて、児童の発達段階に即して、目標を設定する必要がある。

<小学校における目標>

- (1) 生命の誕生及び心身の発育・発達における男女差や個人差に関する基礎的事項を理解するとともに、自己の性を受容し、自分を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- (2) 男女の体の特徴や発達段階などの違い、互いに相手の人格を尊重し合うことの大切さを知り、相手を思いやる心情や態度を育てる。
- (3) 家庭における役割は、男女の別なく分担し、互いに助け合うことの大切さを知り、家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定ができる能力や態度を育てる。

実際には、この目標をさらに低学年、中学年、高学年に細分化し、より児童の発達に即した具体的な目標を設定して行っている。

2 指導内容の関連付け

性教育の指導を体系付けるに当たっては、指導内容をある観点で分類し、6年間を見通した関連づけが必要だと考える。

<分類の観点(例)>

- (1) 体の発育・発達に伴う指導内容
- (2) 心理的な発達に伴う指導内容
- (3) 男女の人間関係から見た指導内容
- (4) 社会的な面から見た指導内容

6年間を見通した関連付けを

| | | 健全な人格の形成 | | | |
|-----|----|----------------------------------|----------------|----------------|--|
| | | 自己の認識 | | 他との関わりの認識 | |
| | | 体の発育・発達 | 心理的な発達 | 男女の人間関係 | 家庭や社会との関係 |
| 小学校 | 6年 | | | ○異性の友達 (学活) | ○性による偏見・差別 (学活) ○性の被害・加害 (学活) ○病気による偏見・差別 (学活) |
| | 5年 | ○新しい生命 (理科) | ○性の不安や悩み (体育) | ○異性への関心 (学活) | ○性の被害・加害 (学活) |
| | 4年 | ○育ちゆく体とわたし (体育) | ○自分の成長の喜び (道徳) | ○男女仲良く (道徳) | ○有害な情報 (学活) |
| | 3年 | ○毎日の生活と健康 (体育) | ○自他の生命の尊重 (道徳) | ○みんな仲良く (道徳) | ○人の嫌がること (道徳) |
| | 2年 | ○大きくなった自分 (生活) ○男女の体のちがひ (学活) | | ○だれとでも仲良く (道徳) | ○いのちをまもる (学活) |
| | 1年 | ○からだの清潔 (学活) | ○わたしのいのち (道徳) | ○友達をつくろう (道徳) | ○わたしの家族 (生活) ○さそいにのらない (学活) |

『いのちのつながり』

小学校 6 年生 学級活動 1 / 1 時間扱い

1 題材名 「いのちのつながり」

2 題材について

小学校卒業に向けて、自分の命が、過去何年にもわたって引き継がれてきた大切な命であることを感動的に知らせたいと考えた。父母はもちろん、自分の祖父母や祖先に対する感謝の気持ちや、限りある自分の人生をしっかりと生きようという気持ちを、この時期に持ってもらいたい。

また、それは他人も同じであること、祖先がどこかでつながっている可能性のある仲間であることにも気付いてほしい。



3 目標（本時のねらい）

自分が生まれる前までには、たくさんのいのちのつながりがあったことを実感させ、自分のいのちも他人のいのちも大切にしようという気持ちを持たせる。

4 教科、領域等の内容的関連

道徳「家族愛」「自他の生命尊重」など 社会「人々の暮らしと歴史」

5 本時の展開例

| 本時の流れ | 留意点 |
|---|---|
| <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> どれが人間になるかわかるかな？ </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ※6種類の胎児の成長過程を提示 </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 胎児の頃はみんな同じような形なのに、どうしてそれぞれの動物になるんだろう？ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>わたしに遺伝子をくれた10代前、20代前のご先祖様は何時代の人？</p>  </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>秘密は遺伝子！</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>10代前、20代前にさかのぼると、ご先祖様は何人？</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 調べてみよう！！ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・10代前は江戸時代、20代前は戦国時代 ・戦争も、一揆も通り抜けて、命が繋がれてきたんだね。 </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・10代前 1024人、20代前 1048576人 ・人口は今の方が多いの、こんなにたくさんのご先祖様？ </div> </div> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>長い間、とぎれることなくつながってきた命。 私も友達も、次へとつないでいくんだね。 こうして考えると、人類皆兄弟！？大切な自分の命、みんなの命。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>※ 相田みつをさんの『自分の番』を朗読</p> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>感じたことや考えたことをまとめてみよう！</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・性交、受精については触れない。 ・ワークシート、電卓使用。 |

6. 子どもたちの感想

- ・戦争時代にも昔の人たちが生きていたからこそつながり、今自分の番が来ているということが分かった。だから今までの人を大事に思おうと思った。
- ・今までのバトンを受け取ってきて、今ここにいる。生きていることに感謝して、自分の命を大切に生きていきます。
- ・みんなもとをたどれば共通の先祖かもしれないのに、いじめなど人の嫌がることをするのはおかしいと思う。地球人みんな兄弟なんだから、困っている人がいたら助けるなど、みんな仲良くしないといけない。

<その他の実践> (北海道性教育研究会札幌大会における公開授業から)

小学校2年生の 実践

自分たちの体が 未来の命へつな がる

自他ともに体を 大切にする

小学校3年生の 実践

(1) 札幌市立東白石小学校2年生 矢留 茂和 教諭の実践

① 題材名

「からだ 男の子・女の子」(学級活動)

② 実践題材について

自分の体の大切なところを見つける活動に取り組みながら、交流を通して、男女の体で「同じく大切なところ」「違うけど大切なところ」といった、みんなの体へと視点を広げる。と同時に「パンツの中」に目を向けさせ、命を育むところが備わっていることを学び、2年生なりの「今この自分たちの体が、実は未来の命へとつながっているんだ」といった素直な驚きから「だから自分や友達の体は大切なんだ」というように、認識の度合いが深まることを期待した。また、自他の体を大切にしていくなかに気をつけることを考える場面を設定し、行動化に結び付けるような工夫をした。

③ 目標(本時のねらい)

自分の体と将来の命とのつながりを知り、自他の体を大切にするために気を付けることを考える。

④ 教科、領域等の内容的関連

道徳「ともだちといっしょ」

生活「大きくなった自分」

⑤ 授業の様子から

体育着着用男子・女子の教材人形が黒板に掲示され、「体で大切な部分は」の発問に対して、「目は…」 「鼻は…」など、体の部位名と働きについて、小気味よい返答が多く出された。展開部分では、人形の着衣を外し、



男女共通の器官から「男女の違い」「どちらも新しい命を育む大切な器官である」へ目を向けさせ、自他ともに体を大切に育むこと、それを実行することの大切さ確認できた授業であった。

(2) 札幌市立真駒内曙小学校3年生 山崎 稔英 教諭 加藤 敏栄 養護教諭の実践

① 題材名

「大切ないのち 赤ちゃん誕生」

② 実践題材について

本題材においては自他の命の重要性について考える機会を設けること中心に据えている。赤ちゃんが生まれるまでの成長過程をしっかりと捉えさせることで命の不思議さやすばらしさを感じ取らせる。そして、自分が多くの人々の支えがあって生まれてきたこと、大切に育てられたことを知ることで、自分の命だけでなく他者の命も大切にできる心が育まれることを願った。

③ 目標(本時のねらい)

- ・自分たちの命は大切に育てられ、みんなの協力で生まれてきた尊いものであることを感じ取る。
- ・自分たちが大切にされて育てられたことを知り、自分の命や他人の命を大切にしようとする心を養う。

④ 教科、領域等の内容的関連

道徳 「家族愛」

理科 「ちょうを育てよう」「植物を育てよう(1)(2)」

「植物の育ちと花」

学級活動 「自分の体を見つめてみよう」

「赤ちゃん誕生」

体育 「毎日の生活と健康」

ゲストティチャーとの連携

小学校6年生の実践

自分史づくり

エンカウンター
の手法

ロールプレイング
の利用

⑤ 授業の様子から



これまでの学習を想起させ、本時は赤ちゃんが生まれたときの周りの人の気持ちを考えた。嬉しい、少し辛い思いもしたのではないかなどの意見が活発に出された。授業者の「胎児の成長過程の理解よりも、自分の誕生が周りの人に与えた大きな喜びと、家族や周りの人から受けた支えを実感することに重きをおきたい」という思いが十分に伝わる授業であった。

児童は、その後の助産師さんの話を食い入るように聞き、さらに思考を深め「自分と同じように他の人のことを考えることが命を大切にすること」を理解し、願いのこもった命を大切にしていきたいという思いに至った。

(3) 札幌市立平岸高台小学校6年生 近藤 伸明 教諭諭の実践

① 題材名

「自分という命～心つなげて」

② 実践題材について

本単元では、本格的な思春期を迎える時期に合わせ、一番密接な親子関係に着目し、「命」の大切さを見つめさせていく。児童は今、思春期を迎えつつある。自分のアイデンティティを守るために親との距離を取ったり反抗したりしながらも、親に対する想いは常に心のどこかに張り巡らせている。まさに境界人（マージナルマン）。これが、この時期の子どもたちである。

そこで「自分史」づくりというフレームワークを設定し、自分から「心」をつなげていくことで、あらためて「自分はこんなに多くの人たちの強い想いに支えられていたのか」という幸せの重みを感じ取らせるような展開を設定した。

③ 目標（本時のねらい）

言葉や態度によって友達との関係が変わっていくことに気付き、これからの自分を考えることができる。

④ 教科、領域等の内容的関連

道徳「家族愛」「協力と責任」など
理科「生き物どうしのかかわり」
学級活動「ヘルスケア事業」
保健「心の健康」
総合「りんごっ子なかよし大作戦」

⑤ 授業の様子から

「配膳中によそ見をしていて、友達の服にクリームシチューがちょっとついてしまった。ど、どうしよう…」エンカウターの技法を活用し、紙に描かれたハートの中には言われてうれしい言葉、外には言われたくない言葉を書かせた。正直に、という授業者の声かけによってハートの外の言葉もたくさん出てきた。



誰もがハートの中の言葉が嬉しいとわかっているのに使えない理由を考え、ロールプレイング。児童達は慣れないハートの中の言葉を恥ずかしがりながらも使っていく中で、「自分が明るくなった。ほっとする。」など素直な感想を述べるまでに変容した。自己肯定感の有用性を認識させる授業であった。

「健全な異性観」

中学校 3年 道徳 2-(4) 健全な異性観

1 題材名 「健全な異性観」

2 題材について

中学生の時期は異性に対する関心が強くなるが、生徒の心身の発達には個人差が大きく、異性に対する関心やあこがれは様々な形で現れる。意識的に異性を避けたり、逆に異性の関心を誘うような態度をとったりすることもある。あるいは興味本位のゆがんだ情報で問題行動に至ることもある。

異性に対する関心が高まることは自然な成長の流れであることを踏まえつつ、異性の特性や違いをきちんと受け止め、自分の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるよう、相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することが重要であると考え本題材を設定した。

3 目標（本時のねらい）

男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する心情を養う。

4 教科、領域等の内容的関連

(1) 保健体育「心身の発達と心の健康」 (2) 特別活動 (2) ーク「性的な発達への対応」

5 指導展開例（□教師のかかわり ○生徒の学習活動 ◆留意点）

| | 教師のかかわり | 生徒の学習活動 |
|--------|---|--|
| 導 入 | ◆事前に『男女交際の意識調査アンケート』などグラフを提示する。 □教師が読みA子とB君の気持ちを考えさせる。 | ○発達には個人差があり、人によって様々な考えがあることを知る ○登場人物の気持ちに共感しながらワークシートに記入する |
| | A子は中学3年生。6ヶ月前B君が隣のクラスに転校してきた。友達C子にさそわれてグラウンドにサッカー一部の練習を見に行ったら、背が高くちょっと大人っぽいB君を見てあこがれるようになった。そして時間があれば1人でグラウンドに行くようになった。もちろんその時はB君が自分に気づいてくれていたなんて考えてもいなかった。しばらくしてB君からA子に声をかけてきた。A子は練習が終わるまで公園で待ち、家の近所までいっしょに帰った。サッカーのこと、受験の悩み、家では親とよくけんかすること、いろいろなことを夢中で話した。A子は帰宅した後もずっとドキドキして塾の宿題が手につかないほどだった。それから2人はつきあうことになり、会うたびに話はずんだ。そのうち手をつないだり腕を組んで歩くようになった。何をやってもA子はB君のことで頭がいっぱいになった。 中体連も終わり、2人は同じ塾に通うようになった。夏休みのある日の夕方、誰もいない公園でB君がはじめてA子にキスしようとした。A子は恥ずかしくて顔をそむけた。それから数日間、2人は気まずくなってあまり話をしなくなった。夏休みの終わり頃、A子はB君から呼び出された。『今度の土曜日うちの親が親戚んち行って誰もいなくなるから、俺の部屋で一緒に勉強しよう。来れるよね?』 A子はしばらく黙った後こう言った。『 | |
| 展 開 | □何をやってもA子はB君のことで頭がいっぱいになったのはなぜか。 □気まずくなってあまり話をしなくなった時の2人の気持ちはどのように変わったのか。 □A子が黙った後、言った言葉を考えよう。 □B君はA子の言葉に対してどう思ったのか | ◆ふざけた雰囲気にならないように心がける。 ・前よりももっとB君が好き。 ・親のことや受験のことは考えたくない。 A子：嫌われてこのまま別れてしまうのかも。 B君：キスしようとしたことを後悔している。 ・やっぱり行けない。ごめんね。 ・行ってもいいよ。でも…。 ・2人きりになりたい。でも嫌われたくない。 ◆自分が登場人物の立場だったらどうするのか具体的に考えさせる。 |
| 終 末 | □男女の望ましい人間関係とはどういうことだろうか。 | ◆男女間においても、互いに尊重しあうことが大切であることを理解させる。 ・交際することによって励まし合い高め合い 信頼を深めることが大切だ。 |

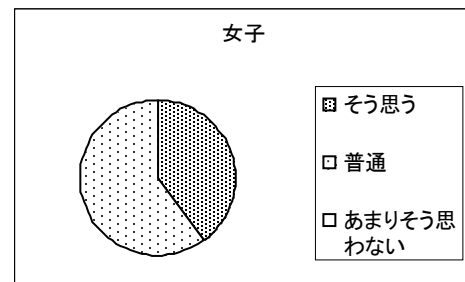
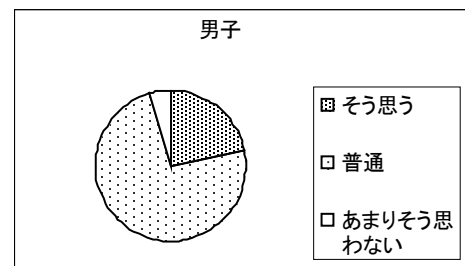
6 生徒が授業を受けて感じたこと（生徒の感想）

- ・ 男女関係はとても難しくデリケートな部分があり、とても人生で難しい事だなと思いました。
- ・ 人間関係については、まず思いやることからはじめたいです。男女ではある程度の距離感があるといいと思いました。
- ・ 男女の人間関係だけではなく、男同士の関係にも相手の気持ちを考えることが大切なので、これから気をつけていきたい。
- ・ 男女の人間関係を望ましいものにするためには、まず第一に自分のことをしっかりとしないといけないと思った。
- ・ 同性同士の付き合いと違って、男女の関係って難しいと思った。いろいろ気を遣ったり、考えて行動しないとうまく関係が続かないから。でも、そういう気遣いをしてもし楽しいから「好き」という感情があるんだと思う。
- ・ 異性とのつきあい方で、「思いやり」が大切とありましたが、同性とでも同じだと思うので、いつも「思いやり」を大切にしていってよい人間関係をつくってきたい。
- ・ 他人と近すぎてもだめだし、距離を取りすぎてもだめだということがよくわかりました。これからは他人との距離感を大事にしていきたいと思います。
- ・ 良い人間関係をつくるには、思いやりや信頼ややさしさなど、たくさんの方がいいと感じた。
- ・ すべての人間関係において「ある程度の距離感」は絶対必要だ。

7 アンケート集計から

| 「今日の授業はわかりやすかったか」 | 男子 | 女子 | 合計 |
|------------------------------|----|----|----|
| そう思う | 5 | 5 | 10 |
| 普通 | 18 | 10 | 28 |
| あまりそう思わない | 0 | 0 | 0 |
| 「B君の行動や気持ちから、新しく気付いたことがあったか」 | 男子 | 女子 | 合計 |
| そう思う | 6 | 4 | 10 |
| 普通 | 15 | 9 | 24 |
| あまりそう思わない | 2 | 2 | 4 |
| 「男女の望ましい人間関係を考えることができたか」 | 男子 | 女子 | 合計 |
| そう思う | 5 | 6 | 11 |
| 普通 | 17 | 9 | 26 |
| あまりそう思わない | 1 | 0 | 1 |
| 「今日の授業をこれからの生活に生かすことができるか」 | 男子 | 女子 | 合計 |
| そう思う | 6 | 4 | 10 |
| 普通 | 14 | 10 | 24 |
| あまりそう思わない | 3 | 1 | 4 |

＜回答傾向が男女で比較的異なる設問＞
◎「男女の望ましい人間関係を考えることができたか」



8 今回の実践から

今回の実践では、異性への関心の高まりは自然な成長の流れであることを踏まえつつ、「異性の特性や違いをきちんと受け止め、自分の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるよう、相手の人格を尊ぶ姿勢を育成することが重要である」ことを考えて実践を行った。

この実践から、生徒の感想にも見られるように、男女の人間関係を友好に保つためには「思いやり」が大切なことを意識させることができた。また、「思いやり」は、男女の人間関係に留まらず、同性同士にも大切な要素であること。良い人間関係をつくるには、思いやりや信頼や優しさなど、相手を気遣うことが重要であることも意識化させることができた。

しかし、集計表からも分るように、答えが「普通」に偏っている傾向が見られる。この意識をより高めるために、授業の展開等をどのように工夫すればよいのか。その探求が今後の課題としてあげられる。

「エイズを知り、エイズから学ぶ発表会」

中学校 3年 総合的な学習の時間

中学校 3年生の
実践

性感染症の予防

適切な意思決定
と行動選択

1 題材名 「エイズを知り、エイズから学ぶ発表会」

2 題材設定の理由

(1) 設定の理由

児童生徒を取り巻く性に関する環境の大きな変化から、性に関する規範意識の低下や逸脱行為、10代の人工妊娠中絶や性感染症の増加等が深刻な問題になっている。性感染症の一つであるエイズの感染者も、若い世代に広がってきている。また、10代における性交の経験の増加が指摘されており、エイズをはじめとする性感染症の予防等に関する指導を求める声が強い。したがって、子供の発達段階に応じて正しい知識を身に付けて、予防できるようにさせることが大切である。

このような状況から、エイズに関する指導により、エイズに対する不安や偏見を払拭し、適切に対応できるようにしていかなければならないと考える。さらには、エイズの予防が性行動と密接な関係を有していることを理解させることが必要である。また、性教育の集大成として、望ましい異性観や男女の人間関係の在り方を考えさせ、適切な意志決定と行動選択ができるようこの題材を設定した。

(2) エイズという病気の4つの特徴

- ① 現在のところ完治できる治療方法がない。
- ② 特有な症状がなく、検査以外ではわからないので、自分が感染していると知らずに、他人を感染させてしまう。
- ③ 感染経路が限られていて、予防方法は簡単であるが、人間の性行動に対する意志決定や行動選択が大きくかわる。
- ④ 長い潜伏期間からくる二つの恐怖がある。
 - ア 自分が将来感染して、命を落とすという恐怖。
 - イ 周りの人に知られた場合に、疎外されるという恐怖。

3 目標

(1) エイズについての正しい知識を深める。

- ① 日本や世界各国の実情と対策、課題等を知る。
- ② 感染経路と予防方法を知り、病気に対する恐怖を取り除く。
- ③ 感染者と一緒に生活しても、自分の強い意志と行動選択で予防できることを理解する。

(2) 人間尊重の精神を培い、感染者の人権を守ることが大切であることを知る。

- ① エイズウイルス感染者に対する誤解や偏見を払拭する。
- ② 感染者の心理や悩みを知り、特別な人間でないことに気づき、一緒に生活できることを理解する。
- ③ 活できることを理解する。

4 指導計画（本時にいたるまでの流れ）

| 時 | 教科・領域等 | 題 材 名 | 目 標 |
|--------------|--------|--------------------------------|---|
| 既 習 | 保 健 | 「エイズという病気の現状について知る」 | <ul style="list-style-type: none"> ・エイズへの興味、関心を引き出す。 ・なぜ、エイズ患者に対して偏見や差別が起こるのかを考える。 ・エイズの感染経路を知る。 |
| 1 | 総合的な学習 | 「エイズという病気」 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の感想を交流し合い、学習意欲を高める。 ・「免疫」機能を理解し、エイズの症状を知る。 ・各自の学習テーマを決定する。 |
| 2 | 総合的な学習 | 「エイズを知る①」 | <ul style="list-style-type: none"> ・エイズに関する資料を使用して、自分のテーマについて調べる。 |
| 3 | 総合的な学習 | 「エイズを知る②」 | <ul style="list-style-type: none"> ・各自の課題を解決できる資料を見つけて、調べる。 |
| 4 | 総合的な学習 | 「エイズを知る③」 | <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ感染者に関する現状を知り、自分のテーマと関連付けて調べてまとめる。 |
| 5 ～ 8 | 総合的な学習 | 「エイズから学んだこと」 「エイズから学ぶ発表会①」 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発信したいことを考え、発表物を制作する（活動場所を同じ表現法ごとに分けると良い） ・同じ表現法ごとに発表会を行う。 |
| 9 ～ 10 | 総合的な学習 | 「エイズから学ぶ発表会②」 「エイズから学ぶ発表会③」 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学級内発表」を通して、発表する力を付け、他人の発表からも知識を深め、学ぶ力をつける。 ・開かれた学年集会で、地域への発信を行う。 |

※留意点～開設する発表方法

（絵本、ポスター等は、教師側が設定して生徒の選択制にすると指導しやすい。）

| テーマ例 | 関連教科 | 活動例 | 発表物例 | 発表会 |
|---------------|-------|---|----------------------|--------------|
| 1 エイズという病気とは | 保健 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で調べる ・新聞で調べる ・インターネット ・訪問学習 ・保健所 ・血液センター ・エイズ相談所 ・難病センター ・病院等 ・感染者との対話 | メッセージを具体的に表現する | 12月1日世界エイズデー |
| 2 男女交際 | 道徳 | | ポスター（美術） | |
| 3 生命誕生のしくみ | 理科・保健 | | パソコンによるプレゼンテーション（技術） | |
| 4 偏見や差別について | 社会 | | 絵本（家庭） | |
| 5 いじめ | 道徳 | | 詩・新聞（国語） | |
| 6 看護、ボランティア等 | 社会・家庭 | | 曲（音楽） | |
| 7 国際理解～ | 英語 | | | |
| 8 外国の現状・国民性等 | 社会・学活 | | | |
| 9 環境問題 | 理科 | | | |
| 10 治療方法に関すること | 保健 | | | |

5 指導展開例

学級内発表会

- 1 発表内容に関する3択クイズをする（答えが発表の中にある）。
- 2 発表の仕方、内容に関する質問や感想を書く用紙を配布し、記入させる。
- 3 パソコンと壁新聞を発表し、交流することでエイズに関する知識を深める。
- 4 発表者が質問に対して答えられない場合、他の生徒が自分の資料を基にして、回答する。

学年内発表会

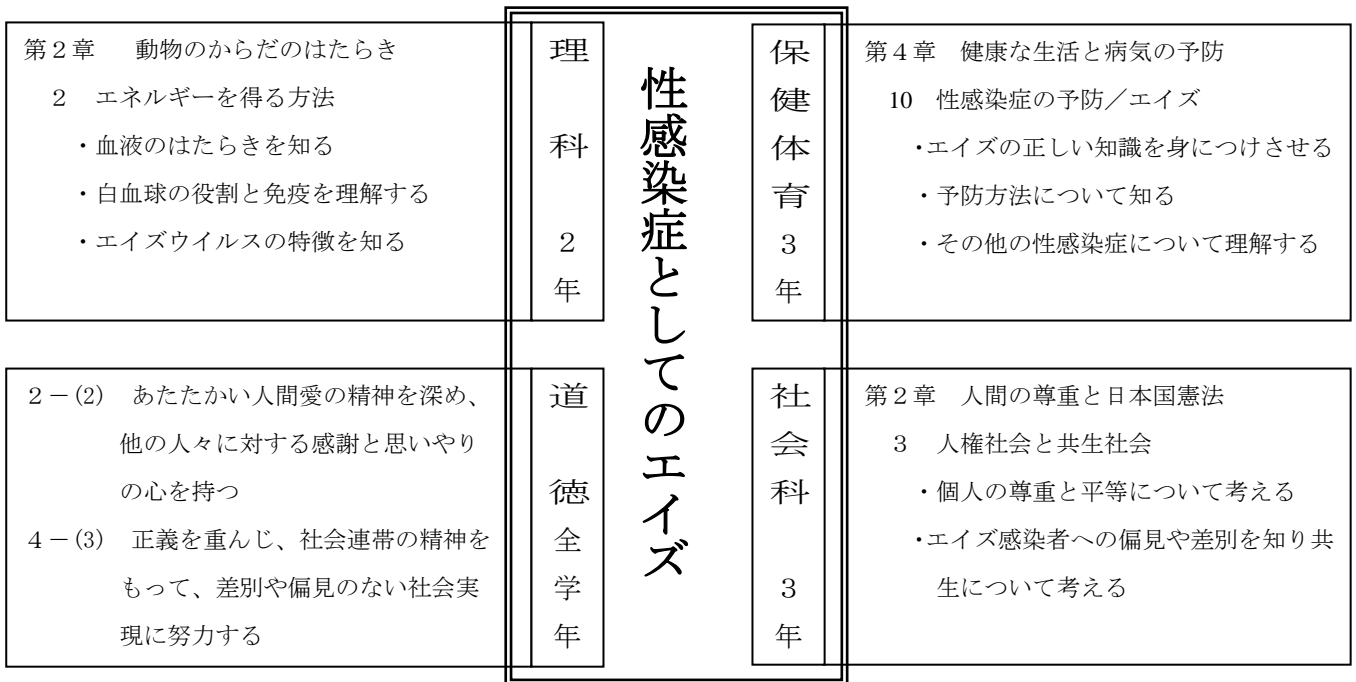
- 5 多様な発表（ポスター、紙芝居等）からエイズへの理解を深める。
- 6 今回の学級内発表会での新たな疑問や、更に調べてみたいことを整理する。

家庭・地域・小学校との連携

各学級での発表会終了後に、地域に発信する学年発表会を体育館において開催する。対象は、保護者、関係小学校6年生、青少年健全育成推進会の委員対学校評議員である。

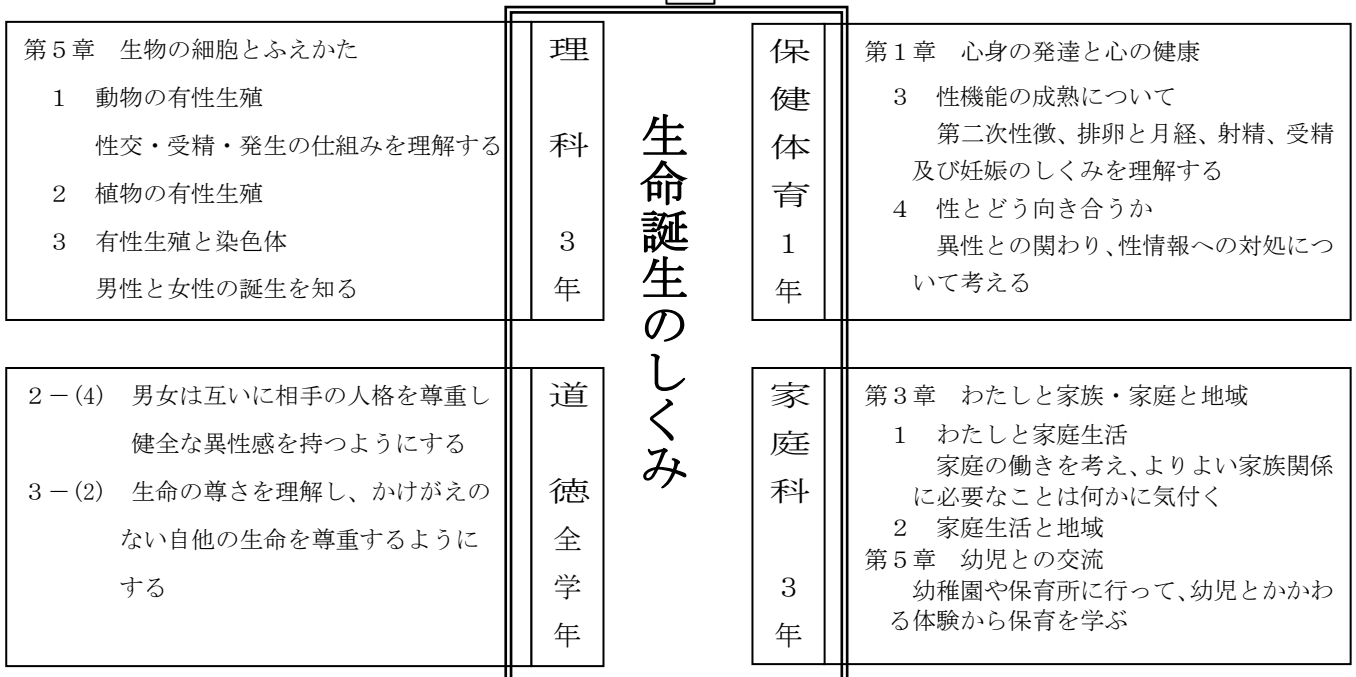
発表後の全体集会において、学校長や保護者、各小学校の代表児童からそれぞれ感想や学んだことを披露してもらう。小学生には学校に戻ってから感想を全員に書いてもらい、学校だよりで紹介し、地域にも配する。

6 各教科・各分野との関連性



総合的な学習（本時）

- ・エイズに関する課題を自分で見つけ、自ら学び、考えて、よりよく問題を解決する資質や能力を培う
- ・自ら律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心などの豊かな人間性を身に付ける
- ・人間の生命や男女の在り方、生き方について自ら考え、意思決定と望ましい行動ができる力を培う



Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

本研究では、「生命の大切さを理解するとともに、人間尊重、男女平等の精神に基づく正しい異性観をもって望ましい行動ができる児童生徒を育成する」という観点から、各学校の教育課程への位置付けや学習計画の在り方、理論研究と同時に、授業実践の在り方について検討してきた。

今回の研究の成果としては、性教育は児童生徒の発達に応じた目標・内容の設定が大切であること、学校教育全体を通して組織的・計画的に行うことが必要であることが明らかになったことがある。

また、性教育の実施に当たっては、教科や道徳、学級活動、総合的な学習の時間との連携を図りながら、包括的な視野に立った学習計画を作成することが重要であることや、性教育を適切に児童生徒に定着させるために、児童生徒の発達段階を考え、学習の関連性・系統性を考慮した指導計画を立てていくことが重要であることを学ぶことができた。

さらには、性教育は小学校、中学校と単独で行うのではなく、校種間で連携し、指導内容の関連性を十分踏まえて構成し、子どもたちの心に深く働きかける指導を行うことで、児童生徒に生命を大切にし、人権を尊重する心をはぐくむことができることを授業実践から学ぶことができた。

組織的・計画的
に教育課程に位
置づける

指導内容の関連
性を踏まえた構
成を

2 今後の課題

現在、性成熟の低年齢化や性非行の低年齢化、性感染症の増加など、さまざまな問題がクローズアップされている。

そのような状況の中で性教育をさらに推進していくためには、小学校からではなく、幼稚園から高等学校まで視野に入れた指導過程の構築に関する研究を進めていく必要がある。また、各教科・道徳・特別活動、そして、総合的な学習の時間を関連付けた教育課程を常に見直し、全職員の共通理解のもと、時代の流れに即した性教育の活動を行っていく必要があると考える。

さらには、家庭・地域・関係機関との連携を深め、参観日・地域公開日等での授業公開、懇談会やPTA広報紙による保護者の意識調査や交流、関係機関との連携・協力を得ながら、より良い性教育の確立のための方策について、実践事例の収集と研究が今後の課題である。

幼稚園から高等
学校まで視野に

家庭・地域・関
係機関との連携
をはかる

<参考文献>

「性教育の手引」札幌市教育委員会

「第38回北海道性教育研究大会・第17回札幌市性教育研究大会要項」

<研究組織>

◎委員長 本間 良夫（札幌市立柏中学校 校長）

◎研究委員

五十嵐 佳葉（札幌市立清田南小学校）

杉浦 浩一（札幌市立北辰中学校）

宮武 祐子（札幌市立宮の丘中学校）

吉田 文昭（札幌市立日章中学校）

長内 康志（札幌市立柏中学校）